

# 北海道浮魚ニュース

平成22(2010)年度5号

2010年 7月 1日

北海道立総合研究機構水産研究本部 函館水産試験場

ホームページ: [http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki\\_index.htm](http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki_index.htm)

## スルメイカ漁場一斉調査結果(道南太平洋)

下北半島東沖で10個体、木直沖で1個体の漁獲があった。魚体サイズは外套長11cmにモードがあり、小型の個体が多かった。

調査船北辰丸で実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・調査期間: 2010年6月7日~17日(釧路水試調査と共通)
- ・調査海域: 道南・道東太平洋
- ・調査船: 北辰丸(216t。イカ釣機6台装備)

なお、調査船3船体制への移行に伴い、今年度より調査内容が変更となっています。

### 1. 水温分布

昨年と今年の水温分布及び漁獲調査の結果を図1及び図2に示しました。

今回の調査は2002年から昨年(2009年6月22~26日)までに比べ1~2週間早い時期に行われています。また、函館沖 St.16 については昨年度で調査を終了しました。

漁獲調査点3点の表面水温は全ての調査点で昨年を上回りましたが、50m水深の水温は浦河沖 St.15 を除いて昨年を下回りました。図中に示した水深50mの等温線からは、

昨年局地的に水温が低くなっていた浦河沖を除き、海域全体として昨年の調査より1~2ほど低い傾向が見られます。

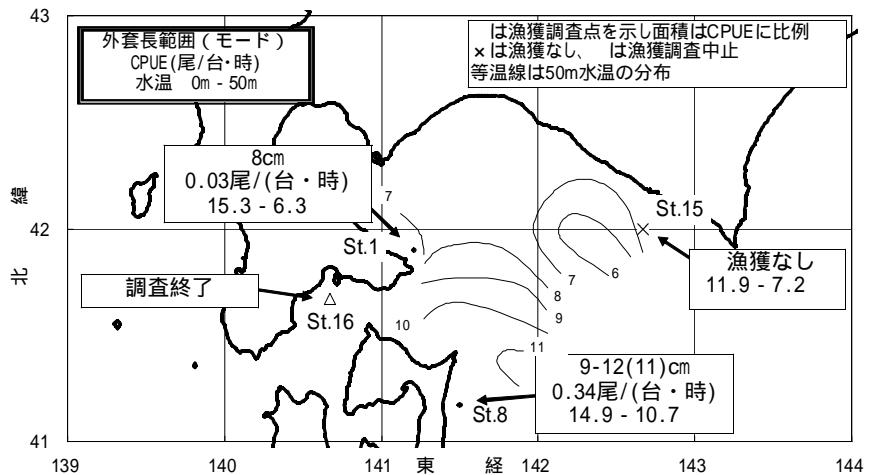


図1 2010年度の漁獲調査結果と水温(6月7-18日、釧路水試北辰丸)

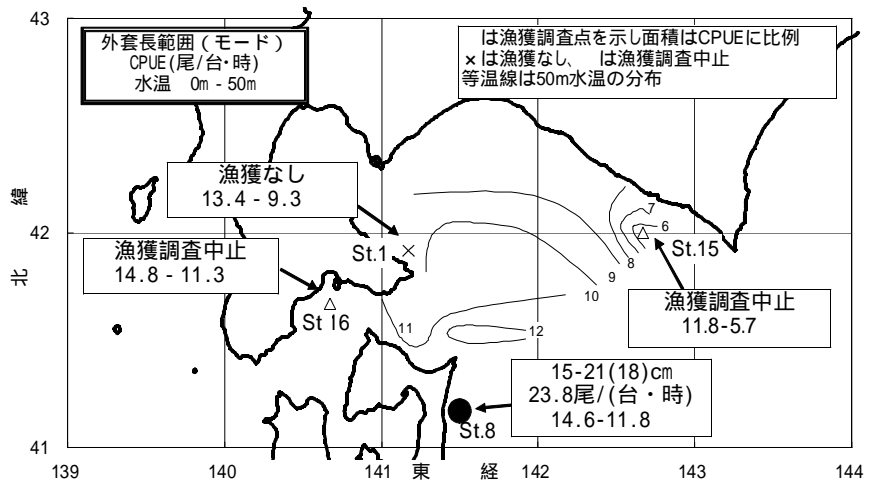


図2 2009年度の漁獲調査結果と水温(6月22-26日、函館水試金星丸)

表1 スルメイカ漁場一斉調査（道南太平洋6月）のCPUEと外套長の経年変化

CPUE(尾/台・時間)	2002 6/24-28	2003 6/23-27	2004 6/21-25	2005 6/20-24	2006 6/19-23	2007 6/25-29	2008 6/26-30	2009 6/24-26	2010 6/7-17
St.1(木直沖)	0.5	2.2	4.3	0.1	0	10.5	62.0	0	0.03
St.8(下北半島東沖)	2.3	1.3	-	0	0.1	4.5	17.7	23.8	0.34
St.15(浦河沖)	10.4	10.2	16.9	0	0	18.1	0	-	0
St.16(函館沖)	4.3	-	-	3.9	6.1	24.2	3.6	-	終了
全調査点平均CPUE	4.4	4.6	10.6	1.0	1.6	14.3	20.8	11.9	0.13
St.1, 8, 15平均CPUE	4.4	4.6	10.6	0.03	0.03	11.0	26.6	11.9	0.13
外套長の範囲(cm)	13-21	10-20	13-21	12-17	12-17	10-21	11-18	15-21	8-12
外套長モード範囲(cm)	15-17	14-17	18	14	15	16-17	14-15	18	8,11

## 2. 分布密度

漁獲調査点3点のうち、下北半島沖 St.8(10尾)と木直沖 St.1(1尾)の2点で計11尾の漁獲がありました。CPUE(2連式イカ釣機1台1時間当たりの漁獲尾数)の値は、St.8では0.34、St.1では0.03でした。浦河沖 St.15では漁獲がありませんでした(図1、図2、表1)。

漁獲調査点3点の平均CPUEは0.13と、過去に比べ低い値となりました。これは、調査時期が早かったことに加え、親潮の勢力が強く、この海域の水温が全体的に平年に比べ低かったため、スルメイカの来遊が遅れていることによるものと考えられます。なお、海況の詳細については、中央水産試験場から発行されている海況速報(HPアドレス：<http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/central/kaiyou/Soktop.htm>)を参照下さい。

## 3. スルメイカの大きさ

漁獲されたスルメイカの外套長の範囲は8~12cm(昨年15~21cm)、海域全体のモード(最も多く漁獲されたイカの大きさ)は11cm(昨年18cm)にあり、10cm以下の小型の個体も多く見られました。(図3、表1)。

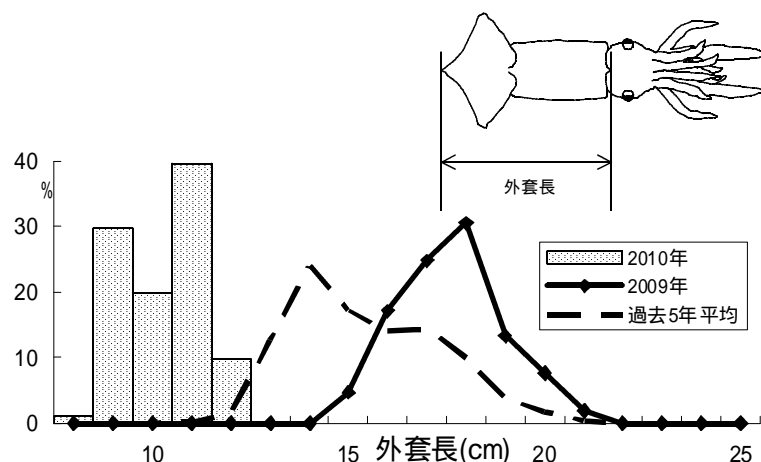


図3 調査海域全体の外套長組成

(文責：函館水産試験場調査研究部、TEL：0138-57-5997 直通、FAX：0138-57-5991)